

会話における接続詞の役割について

—LDOCEに見られる言語使用域標識の
会話体 (*spoken*) を教材として—

河 内 清 志

Conjunctions, when used in conversation, have various interactive functions along with syntactic functions and semantic functions which help develop textual structures. Conjunctions and conjunctive expressions also function as markers of drawing attention to speakers' utterances, and expressing their modal attitudes both at the beginning and during the conversation. Shiffrin (1987) analyzes some of the discourse markers including conjunctions, focusing on the speaker/hearer interactions, and Biber et al (1999) relates language distribution with corpus register to describe spoken and written grammar. Muller (2004) also deals with discourse markers in spoken corpus, looking at the way American people and German people use those discourse markers, which survey he hopes will be utilized for teaching English. With these studies in the background, this paper will consider how conjunctions are described in *LDOCE*, focusing on the register label *spoken* and their functions in conversation.

はじめに

Shiffrin は *Discourse Markers* (1987) の冒頭で同時期のディスコース研究の Brown et al (1983) や Stubbs (1983) を紹介しながらこの分野が多

岐にわたり容易に捕らえにくいものであるとしながらも、ディスコースマーカーとして *oh* (marker of information management), *well* (marker of response), *and, but, or* (discourse connective), *so, because* (discourse of cause and result), *now, then* (temporal adverbs), *y'know, I mean* (information and participation) などの語を、統語的・意味的機能面に加えて、話し手 (speaker) と聞き手 (hearer) の対人関係における語用論的な機能面から分析を試みた。

その一例として、ディスコースにおける *and / but / or* の機能を以下のように説明を始めている。

Or (a coordinator like *and* and *but*) is used as an option marker in discourse. It differs from *and* and *but* not only in meaning, but because it is more hearer-directed: whereas *and* marks a speaker's continuation, and *but* a speaker's return to a point, *or* marks a speaker's provision of options to a hearer. (Shiffrin 1987: 177)

ここでは、等位接続詞の *and / but / or* を統語的機能や文法的意味に加えて、会話に参加している話し手と聞き手に焦点を当てながら、そのどちらに、どのような機能を持たせているかという分析をしているのだが、その意味において、会話参加者の中での人間関係や立場・態度に着目しようとしていることが伝わってくる。

それからおよそ10年後、Biber et al (1999: 82-83) はコーパスに基づいた言語使用域の言語分布の分析を行い、例えば *and / but / or* などの等位接続詞に関して次のように説明している。

The distribution of the most common coordinator, *and*, is surprising. The comparatively low frequency in conversation is notable, as it is often said that speech is characterized by coordination and writing by

subordination. In fact, with the exception of *but*, the frequency of all coordinators is relatively low in conversation, while subordinators are more frequent in conversation than in news and academic prose. This distribution is probably connected with the high frequency of verbs in conversation, which in its turn means that clauses are more numerous. The more clauses there are, the greater need for clause-level connectors (such as *but* and the subordinators).

ここでは、会話・フィクション・ニュース・学術分野の言語使用域における分布や頻度が言及されているが、まず *and* が会話では比較的使用頻度が低いことに対して意外だと述べられている。例えば、以下のような *and* が多用されている例を見てみよう。

Sure we got there *um* at seven *actually* around six fifteen **and** class starts at seven **and** I went up in this building that was about five or six stories high **and** I was the only one there **and** I was the only one there. **And** I yeah I was thinking gosh you know is this the right place or maybe everyone's inside waiting for to come in ...(Biber et al 1999: 1079)

And はこのように会話で多用され、ディスコースの本体を展開させる働きがあることを考えれば、確かに頻度が低いことは意外である。一方、*but* は等位接続詞の中では例外的に会話における頻度が高いとあるが、これは、後述のように、会話参加者の発話内容に対する立場や態度が大きく反映される機能を持っているからと推測される。

このように、ディスコース研究が言語コーパス研究の発達と共に、その充実性を増してきているが、近年では、このディスコース研究とコーパス研究を第二言語習得において活用する動きが見られる。Muller

(2004) はドイツ語話者が英語を習得する際に、ディスコースマーカをどのように使用しているか、英語を母語とする人々の言語コーパスと比較しながら、その類似点・相違点を論じていて、言語教育に活用されようとしていることがわかる。

河内 (2007) では、機能語の中でも *wh*-語や存在を表す *there* などを取りあげ、会話の言語における機能語の役割を見てきたが、この論文では引き続き、*LDOCE* の見出しの中の接続詞と接続詞を含む表現を取りあげながら、会話の中での役割を考察していくことにする。また、次節では [3a] [5b] などの表記は *LDOCE* の見出し語の定義番号や分類を指しているが、*LDOCE* をその言語使用域標識に基づく会話研究の一教材としても活用していただけたら幸いである。

本 論

1. 等位接続詞 (coordinators)

1. 1 and

統語的には語句や節を結びつける役割がある *and* は、ディスコースマーカとして重要な機能を持っている。主に学術的な文献のような書きことばでは、語句の連結をする際に多く用いられる一方で、会話においては節の連結をするのが普通であるということ (Biber et al 1999: 81) から、発話の開始における発話者の心的態度や会話への参加度を示す機能を持っていることが分かる。

また、話しことばにおいて語句を連結する際の機能として、*and* は一種のぼかし表現として話者の態度を表すことがある。‘We’ve paid four thousand seven hundred **and something**.’ では数字に関するあいまいな態度を示し、‘a little more than the number stated’ と説明されている (Biber et al 1999: 112)。他には、‘Tina’s worried about her work **and everything**. [everything 5]’ や ‘The shed is where we keep our tools **and**

things. [thing 2]' や 'There's some very good music there, CD systems **and stuff**, and laser discs. [stuff 5]' のような表現に見られる **and everything, and things (like that) , and stuff (like that)** はこの順で頻度が高く, **and stuff** は *informal* の標識もあり, 同類のものを伝える表現ではあるが, それには言及しない (used to say that there are other things similar to what you have just mentioned, but you are not going to say what they are [stuff 5]) という発話者の態度に関する説明も加えてある。また, 広く知られている **and so on** は書きことばでの頻度が断然高い (Biber et al 1999: 116) という。以下の2項目は, *LDOCE* の *and* での *spoken* の項目である。

1. 1. 1 発言や質問を導入する役割を果たす機能 (used to introduce a statement, remark, question etc [6]) で, 発話の文頭に位置するものである。前述の通り, 発話者が会話の導入したり, 発言権を獲得したりすることにおいて, このようなディスコースマーカ―が有効に機能していることを示している。

- ・ **And** now I'd like to introduce our next speaker, Mrs Thompson.
- ・ 'She's getting married in June.' '**And** who's the lucky man?'

1. 1. 2 相手の発話に対して, まだ説明を求める機能 (used when you want someone to add something to what they have just said [10]) で, **and?** という疑問形で使用されるものである。

- ・ 'I'm sorry.' '**And?**' 'And I promise it won't happen again.'

1. 2 but

But は言語使用域では会話やフィクションで最も頻度が高く, 学術分野の文書では最も頻度が低いとされている。会話で頻度が高い理由は, 会話に参加する人々の相互作用が働き, 謝罪しながら主張をしたり, 会話

相手の発話に対して反論を述べたり、発話内容に修正を加えたりする場面があるからとされるが、*and* や *or* よりも文の先頭を占める頻度が高く、会話の主導権を握るきっかけの発話となる機能がある (Biber et al 1999: 81-84)。それでは *LDOCE* における *but* の機能を見てみよう。

1. 2. 1 **but then (again)** は先行する発話に付加的・補足的に伝えようとする導入表現であり、以下の最初の二例は発話の意味の正反対の意味 (a statement that says almost the opposite of what you have just said [6a]) を、三番目の例は「～であるが、そうはいつでも…」という展開で、先行の発話内容は驚くに値しないとする緩和する表現 (a statement that makes what you have just said seem less surprising [6b]) を従えている。

- ・ John might be ready to help us, **but then again**, he might not.
- ・ You feel really sorry for him. **But then again**, it's hard to like him.
- ・ Dinah missed the last rehearsal, **but then** she always was unreliable, wasn't she?

1. 2. 2 会話相手の発話の内容に対して、「しかし～なものだ！」という怒りや驚きなどの強い感情を伝えようとする (used when you are replying to someone and expressing strong feelings such as anger, surprise etc [7]) もので、感情的な発話の導入表現となっている。

- ・ **But that's marvellous news!**
- ・ 'They won't even discuss the problem.' '**But how stupid!**'

1. 2. 3 これは会話の相手の発話に不賛同を表す導入表現である (used when disagreeing with someone [9]) が、以下の例では、「よい考えであった」と言う相手に対して、「そうはいうけど、うまくいかなかったじゃないか」と不賛同を表しながら、後続の主張を導入している。

- ・ 'It was a good idea.' **But** it didn't work.'

1. 2. 4 会話における強調表現の一つ (used to emphasize a word or statement [10]) で、先行する表現やその一部を繰り返す形式である。特に、以下の第二例が特徴的であるが、発話者は 'I mean' なども付加して、「～、いや、ほんとに～なんだ」と相手に念を押している。前述の通り、会話では言語表現が繰り返される傾向があるが、書きことばでは繰り返し表現ではなく、言い換え表現で文体的工夫をしていく特徴がある。

- ・ It'll be a great party—everyone, **but** everyone, is coming.
- ・ They're rich, **but** I mean rich.

1. 2. 5 会話の流れや話題を変えていく際に用いる機能 (used to change the subject of a conversation [11]) で、第一例では 'now', 第二例では 'tell me' などを付加して、「さてところで～についてなんだけど」と新しい話題や本題に切りかえていることがわかる。

- ・ **But** now to the main question.
- ・ **But** tell me, are you really planning to retire?

1. 2. 6 会話の定型表現で、'excuse me' や 'I'm sorry' に続いて、共起するものである (used after expressions such as 'excuse me' and 'I'm sorry' [12])。語用論的には、発話を投げかけた相手に対する謝罪や注意の喚起とともに、後続に主張する発話を導入するものである。

- ・ Excuse me, **but** I'm afraid this is a no-smoking area.

1. 3 neither

Biber et al (1999: 80, 84-5) は相関的等位接続詞 (correlative coordinators) として、*both-and*, *either-or*, *neither-nor* を挙げ、言語使用域における分布の分析をしている。これらの表現自体は書きことばにおいて頻度が

高く、特に学術分野での文書では、詳細に明示していく必要があるために多く用いられているとしている。この相関表現の中で、*neither ~ nor* …を含む以下の2つの表現に *spoken* の標識が付いている。

1. 3. 1 そのうちの一つは、**be neither here nor there** であり、言い換え表現としては ‘irrelevant’ が挙げてあり、ある事実や状況が、別のことがらに大した影響を与えないのとるに足らないことであることを伝えるために用いられるものである (used to say that something is not important because it does not affect a fact or situation [2])。

- ・ The fact that she needed the money for her children is **neither here nor there**—it’s still stealing.
- ・ It’s true we’re not friends but that’s **neither here nor there**. We’re still able to work together.

1. 3. 2 もう一つ *spoken* の例は、**be neither one thing nor the other** で、「～はどちらとも言えない」という、二者の中では中間的なところに位置することを伝える機能である (used to say that something or someone cannot be described as either one of two types of thing or person, but is somewhere in the middle of the two [3])。以下の例では、‘The New York Times’ は ‘a city newspaper’ というわけでもなく ‘a national newspaper’ というわけでもなく、中間的な要素を持っていることを表している。

- ・ The New York Times is **neither one thing nor the other**. It’s not really a city newspaper and it’s not really a national newspaper either.

1. 4 or

LDOCE は *or* に関して6種類の機能で説明をしている。① ‘You can have ham, cheese or tuna.’ のように、選択肢としての可能性を表し、②また

‘He doesn’t have a television or a video.’ のように、否定の環境の中で「～も…もない」と両者の否定を表すものがある。他にも、③ ‘I had to defend myself or else he’d have killed me.’ では「～もしそうでなければ…」の展開で、良くない状況を避けようとする表現、④ ‘We’ve cleaned it all up, or at least most of it.’ では、「～言い換えれば…」で先行する発話をより明確にし、⑤ ‘It’s obviously not urgent or else they would have called us straight away.’ では先行する発話が真実であることの証明をするための節を導入していて、⑥ ‘There’s a motel a mile or so down the road.’ では数量的なあいまいさを伝えている。そして、*spoken* の標識が付いているのは①の中で、**or anything/something** の形式で、自分の発話に対するあいまいさを伝えようとするものであり、‘or something of the same kind’ との言い換え表現で説明されている。発話者が自らの発話をあいまいにする一種のほかし表現である。

- ・ Would you like a coffee **or something**?
- ・ She wasn’t involved in drugs **or anything like that**.

2. 従属接続詞 (subordinators)

2. 1 as

2. 1. 1 **as if** の形式で、「あたかも～であるかのように」の意味を伝える機能があり (Mrs Crump looked **as if** she was going to explode.), そして、事実でないとか、ありえないと思っていることを強調する用法でも用いられることもある (‘Don’t try any funny business, now.’ ‘**As if** I would.’) のだが、**As if!** の形で、*spoken* と *informal* の標識がついている用法がある [9]。これは、‘It is extremely unlikely that I would go out with him.’ 「わたしが彼とデートするなんてありえない」という言い換え表現からも分かるように、その可能性のなさが表されている。

- ・ He asked if I’d go out with him. **As if!**

2. 1. 2 **as you do** の形式を取り、会話の相手に「ほらみんながよくするように」「ほらみんなよくするじゃない」と発話者が自分のとった行動を説明する機能で (in the way that people usually do something or how they normally behave), これには特に *British English* の標識もついている。さらに、以下の後者の例のように、「昨日街中でフェラーリを運転してたら、君もよくやるでしょ」というような、一般的ではない行動についても、面白おかしく使用され (often used humorously by people after they have mentioned doing something strange or unusual [17]), 独特の発話の効果を持つものもある。

- ・ We talked, exchanged email addresses and phone numbers, **as you do** on planes.
- ・ I was driving a Ferrari through town yesterday—**as you do**—when I saw an old schoolfriend outside the cinema.

2. 2 **because**

2. 2. 1 因果関係で原因を強調する際の *because* は、*cos / cuz* とアメリカ式・イギリス式の語形で *spoken* であることが見出し語として載っているが、**just because ...** の形式でも *spoken* の標識が付いていて、「...だからといって～というわけではない」(used to say that although one thing is true, it does not mean that something else is true [2]) という一連の意味の流れを伝えている。この用法は、‘Perhaps it’s just because you don’t like her?’ にみられるような「単に…だから」という原因を強調されたものとは異なり、後半部分の「～というわけではない」の主張を強調するものとなっている。

- ・ **Just because** you’re my brother doesn’t mean I have to like you!

2. 3 **before**

2. 3. 1 時間の順序を表す **before** は、‘Say goodbye before you go.’

や ‘It will be a while before we know the results.’ にあるような用法以外にも、相手に対する警告を発する場合に *spoken* の標識がついている (used to warn someone that something bad will happen to them if they do not do something [5])。この用法は、上記の ‘Say goodbye before you go.’ とは異なり、語用論的には **before** 以下の「警察を呼ぶぞ」という警告の意味が付加されている点において、会話に参加する人々の間でのやりとりで使用される場面が多いということである。

・ Get out **before** I call the police!

2. 4 **except**

2. 4. 1 基本的な用法として *except* は ‘The office is open every day **except** Sundays.’ におけるような「～を除いて」を表し、ある発言の例外を述べる機能 (to introduce the only person, thing, action, fact, or situation about which a statement is not true [1]) があげられる。また、 ‘Liz would have run, **except that** she didn’t want to appear to be in a hurry.’ では、Liz が走り出さなかった理由として、*except (that)* を用いて「急いでいるように見られなくなかった」ことを伝え、あることがらが生じなかった理由を述べる機能 (used to give the reason why something was not done or did not happen [2]) が揚げられている。

しかし、*spoken* の標識がついている用法では、**except (that)** の形式で、先行する発話内容を緩和する発話を付加する働き (to mention a fact that makes what you have just said seem less true [3]) が見られる。以下の第一例では、「これと同じようなイヤリングを持ってるよ、ただ色は青なんだけど」とか、第二例では、「予定帳とかあげたら素敵な贈り物になるんじゃない、一冊くらい持ってる人はたくさんいるけど」と、先行する発話を緩和しているのである。また *spoken* では、この *that* は省略するとのコメントもある。

・ I have earrings just like those, **except** they’re blue.

- A date book would make a great gift, **except that** a lot of people already have one.

2. 5 if

2. 5. 1 会話において、対人関係上、相手に丁寧な依頼をする際に用いられる機能である (used when making a polite request [5]) が、これは条件としての *if* や間接疑問文を従える *if* の意味のどちらの場合でも可能であることが分かる。以下の場合、最初の三例が条件、残りの一例が間接疑問文を導入している。

- I'd be grateful **if** you would send me further details.
- **If** you would just wait for a moment, I'll try to find your papers.
- Would you mind **if** I open a window?
- I wonder **if** you could help me.

2. 5. 2 会話中、提案をしたり、話題を変えたり、人の発言をさえぎったりする際に用いるもので (used during a conversation when you are trying to make a suggestion, change the subject, or interrupt someone else [9]), 以下の例に見られるように仮定法を用い、後者では主節に相当する部分は省略されているように、きわめて婉曲的に提案をしている。また、両者とも、副詞 *just* が付加されているが、これは 'Could I *just* say a few words before we start?' に見られるように、同じく *spoken* の用法で、会話の相手に丁寧な依頼をする機能 (used when politely asking something or telling someone to do something [just 17a]) を持っているのである。

- **If** I might *just* make a suggestion, I think that the matter could be easily settled with a little practical demonstration.
- **If** I could *just* take one example to illustrate this.

2. 5. 3 この用法は **if I were you** の言語形式で用い、主節において忠告や提案をしていくものである (used when giving advice and telling someone what you think they should do [10]) が、会話相手の立場になって共感しながら忠告や提案をしていくという意味において *spoken* となっている。

- ・ I wouldn't worry about it **if I were you**.

2. 6 like

基本的に *like* の接続詞用法には、Don't talk to me **like** you talk to a child. や It looks **like** it's going to rain. などの例文が挙げられて、前者は 'in the same way as', 後者は 'as if' と言い換えられているが、この接続詞用法は両者とも正用法と考えない人もいるとのコメント付きで紹介されている。また後者には、*informal* の標識が付いている。そして、*spoken* の標識が付いているものが、**like I say/said** という表現である。これは文字通りではあるが、これまでの自分の発言を繰り返す機能であり (used when you are repeating something that you have already said [2]), 会話においては、導入される後続の発話を強調するものである。

- ・ **Like I said**, I don't mind helping out on the day.
- ・ I'm sorry, but, **like I say**, she's not here at the moment.

2. 7 only

逆説の *but* と同じように用いられるが、先行する発話が成立しない理由を述べる機能があり (used like 'but' to give the reason why something is not possible), これに *spoken* の標識が付いている。

- ・ I'd offer to help, **only** I'm really busy just now.

2. 8 seeing

元々、分詞が接続詞としての機能を果たしているものであるが、ある事

実や状況を見てとって、「そういう事実・状況なのだから」という理由を述べるものである (because a particular fact or situation is true)。また、‘seeing as’ の表現でも用いられることがあるが、以下の後者の例の ‘seeing as it’s you’ は相手の要求に同意する際のユーモラスな表現である (used to agree humorously to someone’s request) との説明も付いている。

- ・ I won’t stay long, **seeing as** you’re busy.
- ・ Oh, all right, **seeing as it’s you**.

2. 9 since

時や理由を表す *since* は **since when?** の形で *spoken* の標識が付いていて、会話の相手に質問を投げかける際に、驚きや怒りの気持ちを表すものである (used in questions to show that you are very surprised or angry [3])。またこの句は、*when* [7] の項目でも *spoken* として扱われている。

- ・ **Since when** have you been interested in my feelings?

2. 10 so

2. 10. 1 *So* の基本的な用法は、‘I was feeling hungry, so I made myself a sandwich.’ に見られるような、「～だから…」という流れで先行する理由のためにある行動が起きたことを述べたり (used to say that someone does something because of the reason just stated [1]), **so (that)** の句で ‘He lowered his voice so Doris couldn’t hear.’ においては目的 (in order to make something happen, make something possible etc [2a]) や、‘There are no buses, so you’ll have to walk.’ においては結果 (used to say that something happens or is true as a result of the situation you have just stated [2b]) の意味を伝えるのであるが、*spoken* の標識がついているものが2つある。その一つは、会話において発話者が、会話の続きを始める前の導入として使用するものがある (used to introduce the next part of a story you are telling someone [3])。

- ・ So anyway, he goes in and his boots get stuck in the mud.

2. 10. 2 もう一つ *spoken* の標識がついているのは, *so?* または *so what?* の疑問形式で, 発話内容に対して, 「そんなことはどうでもいい」というような気持ちを伝えるものである (used to tell someone that something does not matter [4]). 以下の例では, 前者は if 以下の内容, 後者は先行する発話の内容に対しての機能であり, *not polite* の標識も付いている。

- ・ So what if we're a little late?
- ・ 'She might tell someone.' 'So? No one will believe her.'

また, ここで, 純粋な接続詞と接続詞的機能を持つ副詞の区別がつきにくい *so / yet / neither* がある。

The borderline between coordinators and linking adverbials is blurred with *so*, *yet*, and *neither*... *So*, *yet*, and *neither* are like coordinators in that they are fixed at the clause boundary, but they are like linking adverbials in that they easily combine with coordinators (*and so*, *and yet*, *but neither*). (Biber et al 1999: 80)

このうち, *LDOCE* で *spoken* の標識がついているものが *so* の副詞用法の中に見られるので, そこに記述されているものも取りあげてみる。

2. 10. 3 会話の相手の注意を喚起し, 特に質問を投げかける際に用いられる (used to get someone's attention, especially in order to ask them a question [adv 7]).

- ・ So, how was school today?

2. 10. 4 先行する発話や状況などを、発話者が正確に理解したことを確認する際に用いられる (used to check that you have understood something [adv 8])。

・ So this is just a copy?

2. 10. 5 先行する発話に対して質問をする際に用いられる (used when asking a question about what has just been said [adv 9])

・ 'He's going to Paris on business.' 'So when is he coming back?'

2. 10. 6 会話の相手に対して、何か気づいたことを伝える際 (used to show that you have found something out about someone [adv 17])

・ So! You've got a new girlfriend?

これらの副詞用法の *so* が特に *spoken* であるのは、会話に参加する人々の中において、発話者が会話相手に注意を喚起したり質問を投げかけたことによって、先行する発話やその時点での状況を確認しようとする機能を持たせているからであると推測されるであろう。

2. 11 *till*

Till はこの語形の *spoken* としての標識が付いており、また *until* の項目にも「*Until* と *till* は同じ意味であるが、*till* の方が会話では *until* より用いられ、また *till* は堅い書き言葉では用いない (*Until* and *till* have the same meaning. *Till* is more usual in spoken English, and is not used in formal writing)」との記述がある。

・ I didn't have a boyfriend *till* I was 17.

・ The shop's open *till* nine o'clock on Fridays.

2. 12 while

この語自体についての *spoken* の標識付けはないが、**while I'm/you're etc at/about it** の成句となって紹介されているものがある。この成句は何か行動をするときに、そのついでに何か他のことも同時に行なってみてはどうかと、会話の相手に提案をする (to suggest that someone should do something at the same time that they do something else [5]) という意味において、会話的であるといえるのである。

- ・ Print out what you've written, and **while you're at it** make a copy for me.

ま と め

以上、接続詞を中心として、会話における単独での機能やコロケーションとしての機能を考察してみたが、統語的には文を連結する機能に加えて、会話では対人関係におけるさまざまな機能があることが分かる。順接・逆接・対比・様態・時間・場所などに代表される文の展開に加えて、発話の導入における注意の喚起・発話導入時における発話者の心的態度・発話中での聞き手に対する姿勢などが含まれているのである。

冒頭で述べた Muller (2004) は、英語を学習するドイツ人とアメリカ人のディスコースマーカーの分布の違いから、統語面と機能面における母語としての認識の違いを明らかにし、言語教育への応用を示唆している。例えば *so* の機能として、ディスコースマーカーではない機能では、①程度②目的③コロケーション中④ドイツ語からの直訳⑤代用をあげ、テキストレベルでは①結果②主題転換③要約/ 換言/ 例示④連結⑤話題転換をあげ、対人的相互関係では、①発話行為での質問②要求③意見④結果の含意⑤話者交代をあげ、アメリカ人とドイツ人の使用分布を分析してその相違点を言語教育に応用しようとしている。外国語学習者は、当該言語における会話表現自体の習得に加えて、その言語表現が会話に

加わる対人関係においてどのように機能するのか、母語との認識の違いから応用に転じることができるであろう。

参 考 文 献

- Biber, D., S. Johansson, G. Leech, S. Conrad & E. Finegan (1999) *Longman Grammar of Spoken and Written English*, Harlow: Pearson Education Limited.
- Brown, Gillian & George Yule (1983) *Discourse Analysis*, New York: Cambridge University Press.
- Carter, R. & M. McCarthy (2006) *Cambridge Grammar of English: A Comprehensive Guide*, Cambridge: Cambridge University Press
- (1995) 'Grammar and the Spoken Language', *Applied Linguistics* 16: 141-158.
- 河内清志 (2007) 「会話における機能語の役割について—LDOCEに見られる言語使用域標識の会話体 (*spoken*) を教材として—」【広島女学院大学論集第57巻】 pp. 1-18.
- LDOCE (2005) *Longman Dictionary of Contemporary English* [New ed. [4th ed.]] Harlow: Pearson Education Limited.
- Muller, Simone (2005) *Discourse Markers in Native and Non-native English Discourse*, Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech & J. Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*, London: Longman.
- Stubbs, Michael (1983) *Discourse analysis: the Sociolinguistic Analysis of Natural Language*, Chicago: University of Chicago Press.